

2020（令和2）年度 研究所報告

1. 組織

所長	浦山あゆみ
主事	Dash Shobha Rani
委員	村山 保史（大学院文学研究科長）
	山内 美智（教育研究支援部事務部長）
	岡田 治之（教育研究支援課長）
	松川 節（教授・人文情報学・東洋史学）
	阿部 利洋（教授・社会学）
	箕浦 暁雄（教授・仏教学）
	新田 智通（准教授・仏教学）
	藤原 正寿（准教授・真宗学）
	井黒 忍（准教授・東洋史）

2. 研究組織

〔特定研究〕

E ラーニングを活用した「仏教・真宗」教育活動の展開

研究課題 eラーニングなど、インターネット環境を活用した新しい教育システムの開発・導入

研究代表者	木越 康（学長・教授・真宗学）
研究員	酒井 恵光（准教授・計算機科学）
	一楽 真（教授・真宗学）
	箕浦 暁雄（教授・仏教学）
	戸次 顕彰（講師・仏教学）
嘱託研究員	難波 教行（真宗大谷派教学研究員）
	松下 俊英（真宗大谷派教学研究所助手）

〔指定研究〕

国際仏教研究

研究課題 諸外国における仏教研究の動向の把握と資料の収集・整理・公開

研究代表者	井上 尚実
研究員	井上 尚実（教授・真宗学）
	Michael J. Conway（講師・真宗学）
	加来 雄之（教授・真宗学）
	新田 智通（准教授・仏教学）
	松川 節（教授・東洋史学）

- 松浦 典弘（教授・東洋史）
 箕浦 暁雄（教授・仏教学）
 嘱託研究員 James C. Dobbins（オーバーリン大学教授）
 Mark L. Blum（カリフォルニア大学バークレー校教授）
 Paul Watt（早稲田大学エクステンションセンター元非常勤講師）
 下田 正弘（東京大学教授）
 羽田 信生（毎田周一センター所長）
 Wayne S. Yokoyama（花園大学元講師）
 Robert F. Rhodes（EB誌編集長、本学名誉教授）
 John LoBreglio（EB誌編集者、オックスフォード・ブルックス大学
 准教授）
 Dash Shobha Rani（准教授・仏教学）
 三鬼 丈知（本学非常勤講師）
 井黒 忍（准教授・東洋史）
 Pham Thi Thu Giang（ハノイ国家大学附属人文科学大学准教授）
 大西 和彦（ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院客員研究員）
 研究補助員(RA) 鶴留 正智（博士後期課程第3学年）
 千葉 一生（博士後期課程第1学年）
 巖 若琳（博士後期課程第2学年）
 NGUYEN TUONG GIANG（博士後期課程第3学年）

西藏文献研究

- 研究課題 チベット語文献のデータベース化
 研究代表者 三宅伸一郎
 研究員 三宅伸一郎（教授・チベット学）
 上野 牧生（講師・仏教学）
 松川 節（教授・東洋史学）
 嘱託研究員 白館 戒雲（本学名誉教授）
 伴 真一郎（2019年度西藏文献研究嘱託研究員）
 渡邊 温子（特別研究員）
 LAMAO ZHUOMA（青海民族大学宗喀巴研究院研究員）

清沢満之研究

- 研究課題 『清沢満之全集』別巻の編纂と思想研究
 研究代表者 西本 祐攝
 研究員 西本 祐攝（准教授・真宗学）
 一楽 真（教授・真宗学）
 加来 雄之（教授・真宗学）

- 藤原 正寿 (准教授・真宗学)
 福島 栄寿 (教授・近代日本仏教史・近代日本思想史)
 西尾 浩二 (講師・西洋哲学)
 大艸 啓 (講師・日本古代史)
- 嘱託研究員 藤田 正勝 (京都大学名誉教授)
 名畑直日児 (真宗大谷派教学研究員)
 浦井 聡 (任期制助教・宗教哲学)
- 研究補助員(RA) 藤井 了興 (博士後期課程第3学年)
 澤崎 瑞央 (博士後期課程第3学年)

東京分室指定研究

研究課題 宗教と社会の関係をめぐる総合的研究－社会的価値観における宗教の役割の解明－

研究代表者 井黒 忍

- 研究員 井黒 忍 (准教授・東洋史)
 青柳 英司 (PD 研究員・真宗学)
 大澤 絢子 (PD 研究員・宗教学・近代宗教文学)
 鍾 宜錚 (PD 研究員・生命倫理学)
 荻 翔一 (PD 研究員・宗教社会学)

〔資料室〕

大谷大学史資料室

研究課題 大学史関係資料の収集・整理

室長 Dash Shobha Rani (研究所主事・准教授・仏教学)

デジタル・アーカイブ資料室

研究課題 大谷大学所蔵貴重資料のデジタル・アーカイブの構築

室長 Dash Shobha Rani (研究所主事・准教授・仏教学)

- 嘱託研究員 川端 泰幸 (博物館主事・准教授・日本中世史)
 清水 洋平 (本学非常勤講師・特別研究員)
 舟橋 智哉 (2019年度デジタル・アーカイブ資料室嘱託研究員)
 Suchada Srisetthaworakul (古典写本研究センター・センター長) 〈タイ・アユタヤ〉

〔一般研究／共同研究〕

研究課題 変動帯の文化地質学

研究代表者 鈴木 寿志

研究員 鈴木 寿志 (教授・文化環境学)

- 協同研究員 廣川 智貴（准教授・ドイツ文学）
 清水 洋平（本学非常勤講師・特別研究員）
 大井 修吾（滋賀大学共同研究員）
 梅田 真樹（京都西山短期大学非常勤講師）
 研究協力員(支援) 石橋 弘明（2019年度一般研究鈴木班研究協力員（支援））
- 研究課題 地方の社会解体的危機に抗する〈地域生活文化圏〉の形成と展開
 研究代表者 西村 雄郎
 研究員 西村 雄郎（教授・地域社会学・コミュニティ論）
 協同研究員 岩崎 信彦（神戸大学名誉教授）
 鯉坂 学（同志社大学名誉教授）
 杉本久未子（大阪人間科学大学元教授）
 堤 圭史郎（福岡県立大学人間社会学部准教授）
 寄藤 晶子（福岡女学院大学人文学部准教授）
 加藤 泰子（同志社大学嘱託講師）
 高野 和良（九州大学大学院人間環境学研究院教授）
 松宮 朝（愛知県立大学教育福祉学部准教授）
 相川 陽一（長野大学環境ツーリズム学部准教授）
 小内 純子（札幌学院大学法学部教授）
 河野 健男（同志社女子大学特任教授）
 藤井 和佐（岡山大学大学院社会文化科学研究科教授）
- 研究課題 世親作『釈軌論』の総合的研究
 研究代表者 上野 牧生
 研究員 上野 牧生（講師・仏教学）
 協同研究員 堀内 俊郎（浙江大学ポストドクトラルフェロー）
- 研究課題 5～13世紀ユーラシア東方における都城と仏塔の比較史的研究と
 3Dアーカイブ作成
 研究代表者 武田 和哉
 研究員 武田 和哉（教授・歴史学・考古学・人文情報学）
 川端 泰幸（准教授・日本中世史）
 協同研究員 吉川 真司（京都大学大学院文学研究科教授）
 横内 裕人（京都府立大学文学部教授）
 藤原 崇人（龍谷大学文学部准教授）
 正司 哲朗（奈良大学社会学部准教授）
 古松 崇志（本学非常勤講師・京都大学人文科学研究所准教授）
 高橋 学而（藤川学園公務員ビジネス専門学校教員）

- 研究課題 歴史史料・考古資料活用による次世代作物資源の多様性構築に向けた学際的研究
- 研究代表者 武田 和哉
- 研究員 武田 和哉 (教授・歴史学・考古学・人文情報学)
三宅伸一郎 (教授・チベット学)
- 協同研究員 吉川 真司 (京都大学大学院文学研究科教授)
渡辺 正夫 (東北大学大学院生命科学研究科教授)
矢野健太郎 (明治大学農学部教授)
江川 式部 (國學院大学文学部准教授)
横内 裕人 (京都府立大学文学部教授)
鳥山 欽哉 (東北大学大学院農学研究科教授)
等々力政彦 (横須賀市自然人物博物館学芸員)
佐藤 雅志 (東北大学農学部准教授)
清水 洋平 (本学非常勤講師・特別研究員)
水谷 友紀 (京都府立大学学術研究員)
- 研究課題 新出資料の調査と分析に基づく沖縄仏教史・真宗史に関する総合的研究
- 研究代表者 福島 栄寿
- 研究員 福島 栄寿 (教授・近代日本仏教史・近代日本思想史)
- 協同研究員 知名 定寛 (神戸女子大学文学部教授)
長谷 暢 (法政大学沖縄文化研究所国内研究員)
川邊 雄大 (日本文化大学専任講師)
- 研究課題 西洋哲学の初期受容とその展開－井上円了と清沢満之の東大時代未公開ノートの公開－
- 研究代表者 村山 保史
- 研究員 村山 保史 (教授・西洋哲学)
Michael J. Conway (講師・真宗学)
西尾 浩二 (講師・西洋哲学)
- 協同研究員 味村 考祐 (任期制助教・西洋哲学)
狭間 芳樹 (本学非常勤講師・特別研究員)
三浦 節夫 (東洋大学ライフデザイン学部教授)
ライナ・シュルツァ (東洋大学情報連携学部准教授)
長谷川琢哉 (東洋大学井上円了哲学センター研究助手)
東 真行 (親鸞仏教センター研究員)
- 研究課題 モンゴルの世界遺産ブルカン・カルドゥン山に関する歴史文献学及

び文化遺産学的研究

- 研究代表者 松川 節
 研究員 松川 節（教授・人文情報学・東洋史学）
 三宅伸一郎（教授・チベット学）
 協同研究員 小野 浩（京都橋大学文学部教授）
 白石 典之（新潟大学人文社会科学系教授）
 二神 葉子（独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所文化財情報資料部長）
 山口 欧志（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財センター研究員）
 松田 孝一（大阪国際大学名誉教授）
 本中 眞（前内閣官房内閣参事官）
 B. ツォクトバートル（Tsogtbaatar, モンゴル科学アカデミー考古研究所収蔵実験室部門主任・研究員）
 B. ハシマルガド（Khashimargad, モンゴル国自然環境省ハン・ヘンティ特別保護行政局長）
 J. サロールボヤン（Saruulbuyan, 元・モンゴル国立博物館館長）
 N. アムガラシ（Amgalan, モンゴル国ガンダンテクチェンリン寺院学術文化研究所事務局長・研究員）
 研究協力員(RA) ARILDII BURMAA（博士後期課程第3学年）
 研究協力員(支援) 伊藤 崇展（大阪大学大学院文学研究科博士課程第3学年）

研究課題 中国唐代・道綽浄土思想の基礎的研究

- 研究代表者 Michael J. Conway
 研究員 Michael J. Conway（講師・真宗学）
 協同研究員 斎藤 隆信（佛教大学教授）
 宮井 里佳（埼玉工業大学教授）
 大西磨希子（佛教大学教授）
 研究協力員(RA) 三池 大地（博士後期課程第3学年）

研究課題 地方社会の解体的危機に抗する〈地域生活文化圏〉の展開と課題

- 研究代表者 西村 雄郎
 研究員 西村 雄郎（教授・地域社会学・コミュニティ論）
 協同研究員 岩崎 信彦（神戸大学名誉教授）
 鯉坂 学（同志社大学名誉教授）
 杉本久未子（大阪人間科学大学元教授）
 堤 圭史郎（福岡県立大学人間社会学部准教授）

寄藤 晶子 (福岡女学院大学准教授)
 加藤 泰子 (同志社大学嘱託講師)
 高野 和良 (九州大学大学院人間環境学研究所教授)
 松宮 朝 (愛知県立大学教育福祉学部准教授)
 相川 陽一 (長野大学環境ツーリズム学部准教授)
 小内 純子 (札幌学院大学法学部教授)
 河野 健男 (同志社女子大学特任教授)
 藤井 和佐 (岡山大学大学院社会文化科学研究科教授)

研究課題 支援が必要な子どもと親のための光・音・匂い環境を用いた『親子の遊び空間』の開発

研究代表者 井上 和久

研究員 井上 和久 (准教授・特別支援教育)

協同研究員 大久保圭子 (平安女学院大学准教授)

高橋 真琴 (鳴門教育大学教授)

姉崎 弘 (常葉大学教授)

研究課題 東アジアの近代化における仏教と西洋哲学の影響関係の解明と国際的連携体制の構築

研究代表者 加来 雄之

研究員 加来 雄之 (教授・真宗学)

福島 栄寿 (教授・近代日本仏教史・近代日本思想史)

協同研究員 浦井 聡 (任期制助教・宗教哲学)

織田 顕祐 (本学名誉教授)

川邊 雄大 (日本文化大学専任講師)

研究課題 人口減少地域の持続可能性と仏教寺院の社会的役割に関する総合的研究

研究代表者 木越 康

研究員 木越 康 (教授・真宗学)

東館 紹見 (教授・日本仏教史)

徳田 剛 (准教授・地域社会学・社会学理論・宗教社会学)

藤枝 真 (准教授・真宗学・哲学)

藤元 雅文 (准教授・真宗学)

協同研究員 野村 実 (任期制助教・社会学・地域交通論・地域社会学)

阿部 友香 (任期制助教・農村社会学・家族社会学)

本林 靖久 (本学非常勤講師・特別研究員)

〔一般研究／個人研究〕

- 研究課題 説話の生成に関する研究－貴族・寺院社会における記録の作成・管理との関連を中心に－
研究代表者 佐藤 愛弓（准教授・国文学）
- 研究課題 ダンス教育で育てるからだを問う～ソマティクスとボディ・ワークのかかわりから
研究代表者 原田奈名子（教授・体育科教育・舞踊学および舞踊教育学・Somatics）
- 研究課題 嗅覚刺激に基づく感覚間相互作用を活かした美術鑑賞教育法の実践的研究
研究代表者 池永 真義（准教授・美術教育学）
- 研究課題 東南アジア大陸部で発展した積徳行文献の体系解明
研究代表者 清水 洋平（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 『甚深伝』校訂と解析によるミラレーバの仏教思想の解明
研究代表者 渡邊 温子（特別研究員）
- 研究課題 認知症患者との「関係性」についての新モデルの構築と展開－「主体」論を超えて
研究代表者 翁 和美（特別研究員）
- 研究課題 タスク条件がもたらす日本人英語学習者のスピーキングへの影響
研究代表者 西川 幸余（准教授・英語教育／英米文化）
- 研究課題 生活困難状況にある若者への離家支援としての共同生活型支援の実態及び有効性の検討
研究代表者 岡部 茜（講師・社会学・社会福祉学）
- 研究課題 儒教文化で捉える「孝」の表現と終末期医療倫理の再構築－日本と台湾の比較を中心に－
研究代表者 鍾 宜錚（PD研究員・生命倫理学）
- 研究課題 Towards the Development of a Critical Learning Support System for Primary School Teachers of English

- 研究代表者 Ryan W. Smithers (准教授・外国語教育・言語学・英米文化)
- 研究課題 日本の地方部における多文化化対応とローカルガバナンスに関する地域比較研究
- 研究代表者 徳田 剛 (准教授・地域社会学・社会学理論・宗教社会学)
- 研究課題 キンギョから見る知覚統合の進化的基盤
- 研究代表者 高橋 真 (准教授・比較認知科学)
- 研究課題 民主化以降、世代交代がすすむ西アフリカにおいてメディアと若者が抱く「変化」の展望
- 研究代表者 田中 正隆 (准教授・社会学)
- 研究課題 社会改善活動へのソーシャルワーカーの参画可能性についての研究
- 研究代表者 中野加奈子 (准教授・社会福祉学)
- 研究課題 『四六文章図』研究－日本中世から近世における駢体の「読み書き」をめぐって－
- 研究代表者 上原 尉暢 (特別研究員)
- 研究課題 19世紀後半のドイツ語文学における「地方」と「ガリツィア」の表象の比較
- 研究代表者 麻生 陽子 (講師・ドイツ文学・文化)
- 研究課題 田辺哲学の中期から後期への発展の解明－武内義範との交流を踏まえて
- 研究代表者 浦井 聡 (任期制助教・特別研究員)
- 研究課題 中世前期の飛鳥井家における顕昭の著作の受容の研究
- 研究代表者 鎌田 智恵 (任期制助教・特別研究員)
- 研究課題 仏教講釈文献の利用と説話の発展に関する写本学的研究－敦煌文献を中心に－
- 研究代表者 高井 龍 (任期制助教・特別研究員)
- 研究課題 アフロ・ユーラシア乾燥・半乾燥地域の水利権に関する比較史研究
- 研究代表者 井黒 忍 (准教授・東洋史)

- 研究課題 健聴児ならびに聴覚障害児の数学的コミュニケーションの認知-非認知能力の測定
研究代表者 江森 英世（教授・数学教育学）
- 研究課題 新たなソーシャルサポートとしての〈よりそう支援〉のモデル化に関する研究
研究代表者 大原 ゆい（講師・社会学）
- 研究課題 戦国期の誓約をめぐる社会史的思想史的研究
研究代表者 山本 春奈（任期制助教・特別研究員）
- 研究課題 中山間地域のモビリティ確保策に関する比較研究
研究代表者 野村 実（任期制助教・特別研究員）
- 研究課題 維新时期における東本願寺の破邪論とキリシタン-樋口龍温の未公開史料の分析と公開-
研究代表者 狭間 芳樹（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 真宗地域における葬墓制と他界観に関する民俗学的研究
研究代表者 本林 靖久（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 近世における『教行信証』の創造的解釈-知暹『樹心録』の研究-
研究代表者 青柳 英司（PD 研究員・真宗学）
- 研究課題 近代日本における教祖像形成に関する総合的研究-最澄・空海・親鸞・日蓮-
研究代表者 大澤 絢子（PD 研究員・宗教学・近代宗教文学）
- 研究課題 ASEAN サッカーのグローバル化に関する社会学的分析
研究代表者 阿部 利洋（教授・社会学）
- 研究課題 在朝鮮日本人画家加藤松林人の阿南市所蔵作品と遺稿に関する研究
研究代表者 喜多恵美子（教授・韓国朝鮮美術）
- 研究課題 浄土真宗寺院における布教テキストとしての由緒書の基礎的研究
研究代表者 川端 泰幸（准教授・日本中世史）
- 研究課題 自ら学び続ける教員養成プログラムの構築-コーチングとリフレク

シヨンの導入研究－

研究代表者 谷 哲弥（講師・理科教育）

〔PD 個人研究〕

研究課題 『教行信証』の解釈史の研究

研究代表者 青柳 英司（PD 研究員・真宗学）

研究課題 近代日本の大衆文化における教祖像の研究

研究代表者 大澤 絢子（PD 研究員・宗教学・近代宗教文学）

研究課題 「孝」思想に基づく終末期医療の法と倫理－儒教文化圏における「善終」の実践と意思決定制度の変遷－

研究代表者 鍾 宜錚（PD 研究員・生命倫理学）

研究課題 現代における在日コリアンのキリスト教信仰に関する研究－1960年代以降の韓国社会の宗教変動に注目して－

研究代表者 荻 翔一（宗教社会学）

3. 指定研究の動向

E ラーニングを活用した「仏教・真宗」教育活動の展開

大谷大学は近年、仏教および真宗の学びを一般社会へと広く公開することを主要な活動のひとつとして位置付けてきた。この活動はこれまで本学会場とした公開講座や紙媒体での出版物などを通して行われてきたが、本研究班では、仏教公開の理念をさらに積極的に展開するため、「E ラーニングを活用した「仏教・真宗」教育活動」に関する研究を進めてきた。

2019年度から始まった本研究は、2018年度、つまり COVID-19 の蔓延以前からすでに計画されたものであった。しかし 2020 年から 2021 年にかけて、ウイルスによる世界の混乱は、期せずして多くの人々の間でインターネットを介した情報交換や教育活動を推進させてきた。本研究班もその影響を受けつつ、また特にその反省から、より有効な E ラーニングコンテンツの開発を目指して研究を進めてきた。

目的達成のための第一段として、現在は「仏教入門」に関するコンテンツ開発に着手している。全 9 回の構想のもとで、原稿作成と資料映像収集の作業をすすめている。9 回中 3 つのコンテンツについてはテスト収録を繰り返しているが、想定通りの仕上げに至らずに、苦労を重ねている。当初計画によれば、2021 年度後期には半分分についてテスト配信を行い、2022 年度からの実運用開始に向けた態勢を整えるはずであったが、2021 年 10 月現在で、第 1 回目「はじめに－仏教遺跡と仏教典籍－」の試作版を完成させたのにとどまっている。

今後は、テスト収録を終えている他 2 本についての試作版収録を 12 月末に終え、

年度内にテスト配信を行いたい。これまでの失敗の積み重ねによって収録経験も重ねてきたので、以降は比較的速やかに作業を進めることが出来るものと期待している。

国際仏教研究

本研究は、諸外国における仏教を中心とした宗教研究の動向を把握するとともに、国際社会に対して本学の真宗・仏教研究を公開することを目的としている。近年、仏教学・宗教学の分野における国際化は以前にも増して急速に進んでおり、真宗についても外国語による研究を視野に入れなければならない状況にある。そうした動きに対応すべく、欧米とアジアの言語文化圏を担当する二つの班を置いて研究活動を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、2020年度の研究計画を大幅に変更する必要があったが、各班の研究成果の概要は以下の通りである。

〈欧米班〉

①翻訳研究活動

2020年度には、第8回と第9回の『歎異抄』翻訳研究ワークショップを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ワークショップの性質に鑑みて、カリフォルニア大学バークレー校東アジア研究所および龍谷大学世界仏教文化研究センターとの協議の上、対面開催が可能となるまで延期することにした。

②国際学会参加

COVID 19のために以下のような変更があった。

1) 国際仏教学会（IABS）第19回学術大会にてマイケル・コンウェイ研究員が個人発表をする予定であったが、大会は2022年に延期された。

2) 国際宗教学宗教学史学会（IAHR）第22回世界大会において井上尚実研究員、シヨバ・ラニ・ダシュ嘱託研究員、木越康教授によるパネル発表を行う予定であったが、大会が中止された。

3) 国際真宗学会第20回ヨーロッパ大会で加来雄之研究員が個人発表の予定であったが大会は中止された。

4) アメリカ宗教学会（AAR）年次大会に、アメリカの宗教研究の動向を把握し、東方仏教徒協会（EBS）の運営のために論文発掘および人脈の充実を図る目的でマイケル・コンウェイ研究員が参加する予定であったが、大会は2020年11月29日から12月11日までオンライン形式で開催されるように変更となったので、時差が許す限り、Zoom上で参加した。

③シンポジウム成果の出版準備

1) *Cultivating Spirituality: A Modern Shin Buddhist Anthology* 出版記念シンポジウム成果出版に向けて、マーク・L・ブラム教授（嘱託研究員）とマイケル・コンウェイ研究員の共同編集により欧米の大学出版から出版する予定で編集作業を進め、2020年10月31日にハワイ大学出版に原稿を入稿した。2022年4月に発行される予定で

ある。

2) 国際仏教シンポジウム「仏陀の言葉とその解釈」(ELTE 東アジア研究所と共催) 成果出版物として *The Buddha's Words and Their Interpretations* (The Shin Buddhist Comprehensive Research Institute, Otani University, Kyoto) を ELTE のハマル・イムレ教授と井上尚実研究員の共編で 2021 年 2 月に発行した。

④公開講演会の開催

今年度は 3 回の公開講演会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催できなかった。

⑤The Eastern Buddhist Society 事業

1) *The Eastern Buddhist* 第 49 巻第 1/2 号 (合併号) を 2 月に刊行した。

2) 第三シリーズに向けて、装丁・レイアウト等についての具体的な検討を進め、装丁等を決定した。

3) 2021 年に控えている協会設立 100 周年記念事業について検討し、9 月の日本印度学仏教学会の第 72 回学術大会において開催校特別パネルの枠で 100 周年記念パネルを設けることとし、その企画をした。また 11 月のアメリカ宗教学会年次大会におけるパネル発表の準備をした。

〈アジア班〉

①中国社会科学院古代史研究所との学術交流協定に基づく研究活動

例年、相互に訪問し、研究会を開催してきたが、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催することができなかった。なお、2015 年 12 月に開催した「中国古代史及び敦煌・トゥルファン文書研究」国際シンポジウムの成果として論文集については、来年度の出版を目標に準備を進めている。

②ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院との共同研究

『日本仏教概説』出版に向けた作業を行った。Pham Thi Thu Giang 嘱託研究員が日本語原稿の翻訳作業を行い、なお継続作業中である。新型コロナウイルス感染症の影響により、相互訪問による詰め作業を行うことはできなかった。

西藏文献研究

本研究は、大谷大学所蔵チベット語文献のうち重要・貴重なものを整理し、データベース化するとともに、電子テキスト化・デジタル画像化して公開することを目的としている。この目的を達成するために、2020 年度は、以下の研究をおこなった。

(1) チベット語文献の電子テキスト化・画像デジタル化とその公開

今年度は (A) 『極楽に生まれるボワ (遷移) と犯戒還浄など』(蔵外 no.13940) と (B) プトン・リンチェンドゥブ (1290-1364) 『仏教史善説宝蔵 (= プトン仏教史)』(蔵外 no.11842) の研究をおこなった。(A) は、無量光仏の観想法や、極楽往生のための「ボワ (遷移)」の行法 (ともにパンチェン・ラマ 4 世の著作)、戒律違反を懺悔し、その罪を浄める方法について説いた計 4 点のテキストによって構成された写本で

ある。本写本の前半部に関しては、異読の多さからタシルンボ版パンチェン・ラマ4世所収本を筆写したものではないことが推測される。なお、本写本の表紙には「spyi」（「公」という意味）と陰刻された小型の朱印が押されている。大谷大学所蔵のチベット語文献に見られるこうした捺印に対する研究も、今後進める必要があろう。本写本の研究としては、校訂テキスト作成とともに、典拠となる資料の収集もおこなった。

（B）に対する研究としては、十分に研究が進展していない第1章仏教概説の部分について、研究発展のための基礎的資料を提供するために、本学所蔵のタシルンボ版（no.11841）をはじめとした各種版本・写本を用いた校訂テキストの作成をおこなうこととした。今年度は、タシルンボ版、シャル寺版、ラサ版、中国蔵学研究中心刊行活字本の異読箇所の確認をおこなった。

（2）モンゴル国立大学との共同研究

第1期（2013～2015年度）の研究成果報告書（松川節・P. デルゲルジャルガル編『モンゴルにおける仏教の後期発展期（13世紀～17世紀）の仏教寺院の考古学・歴史学・宗教学的研究：第1期（2013～2015年）研究成果報告書』大谷大学真宗総合研究所）を完成させた。モンゴル語論文が4本、日本語論文が2本、英語論文が1本が収録されている。モンゴル語・日本語のものについてはそれぞれ日本語・モンゴル語による要旨を付した。

清沢満之研究

本研究は、清沢満之の生涯と思想の研究を進め、その成果を大谷大学編『清沢満之全集』（岩波書店、以下『全集』と略）の別巻として刊行することを目的としている。本年度は、2018年度より開始した研究計画の最終年度である。前年度の別巻Ⅰ刊行に続き、年度末までの別巻Ⅱの刊行をめざし活動を行った。また、『全集』のオンデマンド版の出版に向けた作業を並行して行った。本年度の主な活動は以下の通り。

1、『清沢満之全集』別巻Ⅱ刊行

別巻Ⅱの刊行に向けた編集作業は、研究員（9名）研究補助員（2名）と研究補助者（5名）で進め、文字の確定、本文の確認、図版等の体裁、注項目の抽出等を中心とする読み合わせを8月中に終えた。体裁の調整や確認作業を経て9月に入稿した。「解説」については、西洋哲学・日本思想史の研究者である藤田正勝氏（京都大学名誉教授）に執筆いただき、ほぼ同時に入稿した。原稿の校正刷は、2020年11月から2021年3月にかけて研究班構成員の全員で確認を行い、当初の計画通り、年度内の2021年3月26日に刊行した。

2、『全集』オンデマンド版の出版

岩波書店との交渉で『全集』のオンデマンド版を同社から刊行することとなった。これに向けて、『全集』刊行後に把握した修正箇所の確認や整理作業を行った。毎月1巻の刊行予定で、第1巻の刊行を2020年4月に開始した。コロナによる出版事情への影響もあり、第2巻以降の刊行には若干の遅れが生じたが、2021年3月までに第9巻までの配本を完了している。

3、今後に向けて

本研究では、当初の計画通り、別巻Ⅰ・Ⅱの刊行を果たすことができたわけであるが、それは本研究のメンバーのみではなく、関係寺院・施設、研究機関、研究者、大学の関係部署のご協力、個別の検討事案にご助言いただいた学内教員（歴史学科、文学科、仏教学科、真宗学科）の方々の力添えによって実現できたものであることをここに銘記しておきたい。

また、当初、収録予定であった文献で掲載を見送ったもの、編集中に寄せられた清沢著述文献の情報等、編集作業と並行して確認した事柄がある。それらについては本研究『研究紀要』等で経緯も含めて報告し、今後の清沢満之研究の課題として共有していく。

大学史資料室

大谷大学の公文書及び、大学の歴史に関する様々な資料を収集、整理、管理、保存することが本資料室の主な目的である。それに加えて、資料や情報提供、保存資料の学内展示などを通して資料公開にも努めている。大学史資料の他に、パンフレットやノベルティなど大学発行物を大学史資料として保管していくことも目的としている。本資料室の2020年度の活動は以下の通りである。

1、所蔵資料と寄贈資料の整理

学内所蔵資料と他大学からの寄贈図書やパンフレット等の整理が行われ、図書等の目録化や住所録作成・整理が行われた。

2、所蔵資料・データ調査・貸出業務

学内及び学外から3件の大学史所蔵資料に関する確認の問い合わせがあり、それに対応させていただき、関係資料の照会などを行った。

3、所蔵資料の学内展示

図書館エントランス展示スペースにて「大谷大学～in 東京～」と題したスポット展示を行った。本展示では、明治34（1901）年10月13日に東京巣鴨で開校した真宗大学の様子を写真や資料を用いて紹介した。（展示期間：2020年9月1日～2020年10月30日）

4、学会参加

大学史に関する知識を深めるために全国大学史資料協議会とその西日本部会の研究会に参加予定であったが、COVID-19の影響により中止となった。

デジタル・アーカイブ資料室

本資料室の主な目的は、大谷大学が所蔵する貴重な学術資産をデジタル化し、それらを整理、保存すること、そしてそのデータを研究資料として公開、提供することである。2020年度の研究活動・成果は以下のとおりである。

①大谷大学図書館所蔵古典籍の書誌学データベースの登録および公開に取り組んで、2020年度分の公開準備中の件数は現在のところ221件であり、これを合わせて

公開準備中合計件数は1,264になった。2020年度に348件の書籍が公開された。これによって2021年3月までの古典書籍の公開件数は14,851件になった。

②タイ王室より寄贈され、現在本学に所蔵されているパーリ語貝葉写本（以下「大谷貝葉」と略す）の詳細目録が『大谷大学図書館所蔵貝葉写本目録』（大谷大学図書館編）という題名で1995年に出版されているが、これのデジタル・データがないことが確認された。パーリ語貝葉写本の今後の整理と研究のため、そのデジタル入力作業が2020年度から始まり、Excelでのデータ入力が概ね済んでおり、その校正作業が進行中である。

③2021年2月26日（金）にハイデルベルク大学（ドイツ）との共同シンポジウム「The Digital Preservation of Asian Manuscripts and Documents」（アジアにおける写本と資料のデジタル保存）を実施した。今回のシンポジウムでは、日本・タイ・ネパールにおける諸写本のデジタル・アーカイブの取り組みと研究が報告され、デジタル・アーカイブ資料室の今後の活動に役立つ多くの情報が得られた。ハイデルベルク大学の研究者たちはネパールの資料、文化財のデジタル化、公開に関する取り組み、技法、使用ツールについて発表した。デジタル・アーカイブ資料室の発表内容としては、資料室全体の取り組みの紹介（発表者：ダシュ）、東南アジアの仏教系貝葉写本の撮影、入力、編集技法（発表者：スチャータ・スリセッタヴォーラクル〈本資料室嘱託研究員〉）、チベット文献のデジタル化（発表者：三宅伸一郎〈西藏文研究班研究員〉）についての発表が行われた。10か国以上の150人以上の研究者が興味を持ち参加したことが、今後のデジタル・アーカイブ資料室の活動に大きな刺激を与える。

東京分室指定研究

1. 研究会の開催

生死の問題と宗教との関係および宗教の社会的実践という問題を考えるため、外部より講師を招聘して下記の研究会を行った。いずれもオンラインでの開催となった。

(1) 2020年7月6日、寿台順誠氏（浄土真宗本願寺派光西寺住職）「現代の生老病死－引き延ばされる老病死と操作される生」

(2) 2020年12月7日、井川裕覚氏（上智大学大学院・関東臨床宗教師会代表）「臨床宗教師から考える仏教の現在と未来」

2. シンポジウムの開催

宗教と社会的マイノリティとの関係および公的空間における宗教の役割を考えるため、下記の公開シンポジウムを開催した。いずれもオンラインでの開催となった。

(1) 2020年10月25日、「日本仏教を生きる女性たち」。報告者は丹羽宣子氏（國學院大學）「法華経の世界」を生きる－仏教教理と生活世界の交錯する場に注目して」、山内小夜子氏（真宗大谷派開放推進本部）「女子の得度－近代大谷派における女性の位置と役割」、福島榮寿氏（大谷大学）「近・現代真宗大谷派の女性教化の特徴－

その教説から読み解く」、コメントはダシュ・ショバ・ラニ氏（大谷大学）。

(2) 2021年3月13日、「近現代日本の監獄教誨と宗教」。報告者は繁田真爾氏（日本学術振興会 PD）「戦前日本の監獄教誨－異端的教誨師の系譜から考える」、アダム・ライオンズ氏（慶應義塾大学）「戦後から現代の宗教教誨－教誨師のジレンマにみる－」、コメントは江連崇氏（名寄市立大学）。

3. 現地調査

地域における宗教と社会の歴史的関係を考えるため、「隠れ念仏」に関する史跡・史料の調査を実施した。日程は2020年11月14日～11月15日、出張先は花尾かくれ念仏洞、真宗大谷派願立寺、土橋かくれ念仏洞、真宗大谷派鹿児島別院、鹿児島県立博物館、黎明館。参加者は青柳英司、井黒忍、荻翔一、鍾宜錚。